

別記様式第14号-1(第28第4項関係)

令和3年度 消費・安全対策交付金(食料安全保障確立対策推進交付金)都道府県等成果及び評価報告書
(令和2年度補正予算繰越分)(令和4年8月作成)

都道府県等名:愛媛県

目的	目標	目標値及び実績			事業実施主体ごとの達成度			交付金相当額 (円) (うち地域提案メニュー)	備考
		目標値	実績	達成度	事業実施主体	目標	達成度		
Ⅱ 伝染性疾病・病 害虫の発生予 防・まん延防止	病害虫の防除の推進 (特別交付型)	スクミリンゴガイのま ん延防止	スクミリン ゴガイの まん延防 止	達成	愛媛県	スクミリン ゴガイの まん延防 止	達成	85,225	
総計・総合達成度				総合達成度 達成 総合評価 適正				85,225	

国による評価の概要

総合達成度は「達成」であり、総合評価「適正」は妥当と判断する。なお、事業は適切に実施されたと評価する。

目標 病害虫の防除の推進					
事業実施期間 令和3年度			都道府県等名 愛媛県		
事業の実施方法					
<p>愛媛県伊予市、松前町及び砥部町は、集落営農による水稻栽培が盛んな地域であり、県内で唯一、種子生産も行うなど、本県の水稲生産にとって重要な拠点である。</p> <p>しかし、近年、田植え直後の稚苗をスクミリンゴガイが食害し、大幅な収量減や農薬等のコスト増等が大きな問題となっている。</p> <p>当該地域では麦との二毛作栽培が行われているが、この栽培体系においては、既存の防除対策として有効な冬季の耕うん等が実施できない場合があり、種子生産ほ場では被害株の補植ができないといった問題もある。このため、管内の二毛作体系に適合した防除体系を確立させる必要がある。</p> <p>地域の実情に応じて、①冬期の定期的な耕うん・水路の土あげ、②ほ場の均平化、③田植え前の入水口へ侵入防止ネットの設置、④田植え直後の浅水管理、⑤深水・誘殺箇所等の設置、⑥化学農薬散布、⑦マイナー手法(アイガモ等)の導入等を可能な範囲で組み合わせ、その効果を検証し、効果的な防除体系の確立を行い、スクミリンゴガイのまん延防止を図った。</p>					
目標値					
項目	現状	目標値	実績	達成度	評価
温暖化等の影響で発生密度が増加している病害虫の管理手法の確立	—	スクミリンゴガイのまん延防止	スクミリンゴガイのまん延防止	達成	適正
事業内容及び実績額					
事業内容	規格・規模等	所要額実績(円)	左の交付金相当額(円)	交付率(%)	
(3) 温暖化等の影響で発生密度が増加している病害虫の管理手法の確立	水稻 17ほ場 2.0ha	170,451	85,225	49	
事業の成果					
ア 対象作物名及び対象病害虫・雑草名 水稻、スクミリンゴガイ					
イ 取り組んだ検定手法や防除技術等の内容 各種防除手法(①冬期の定期的な耕うん・水路の土あげ、②ほ場の均平化、③田植え前の入水口へ侵入防止ネットの設置、④田植え直後の浅水管理、⑤深水・誘殺箇所等の設置、⑥化学農薬散布を組み合わせた実証ほ場を設置し、その効果を検証した。 ⑦マイナー手法については、普及性に乏しいため実施しなかった。					
ウ 検定手法や防除技術等の実証ほ等の設置場所及び面積 計 17箇所(2.0ha)					
<ul style="list-style-type: none"> ・伊予市尾崎地区 4圃場 対策 ②④⑥を実施 ・伊予市上吾川地区 1圃場 対策 ①②③④⑤⑥を実施 ・伊予市中村地区 2圃場 対策 ②④⑥を実施 ・伊予市稲荷地区 1圃場 対策 ②③④⑥を実施 ・松前町大溝地区 2圃場 対策 ①②③④⑥を実施 ・松前町岡田地区 5圃場 対策 ①②④⑥を実施 ・砥部町川井地区 2圃場 対策 ②③④⑥を実施 					
オ 講習会、検討会等の開催回数 研修会 4回					

カ 防除が困難な作物の防除体系等の効果把握調査報告
 定期的な巡回や生産者等への聞き取り調査により、被害状況を把握し、各種防除対策の組み合わせの効果を確認した。
 その結果、8割を超えるほ場において昨年比で被害が減り、うち半数以上で5割以上被害が減少したことを確認した。
 組み合わせでは、殺菌剤散布と田植え直後の徹底した浅水管理が最も有効であった。

キ 現行での病害虫防除経費
 経費（円/10a）：約5千円
 内訳：化学農薬を2回散布

ク 新たな管理手法の導入における病害虫防除経費
 経費（円/10a）：約3千円
 内訳：化学農薬を1回散布し、代掻きや浅水管理を徹底する

ケ 見学会、広報等の取組
 成果を取りまとめ、研修会や現地確認等を通じて生産者に周知した。

コ 防除体系等の効果の検証の概要

令和3年度のスクリングガイの発生量は、前年度に比べて全体的に3割程度少なかった。これは、前年度冬季の平均最低気温が低く推移したことにより、越冬虫が減少したためと考えられる（松山市における最低気温の平均：R2年1月＝5.4℃、R3年1月＝2.6℃）。

発生量が少ない状況ではあったが、8割以上の実証ほ場で前年度（当時は、化学農薬2回散布による管理が主流）より被害が減少し、さらに、その半数以上のほ場で前年比50%以上の被害の減少が見られた。各種防除手法の組み合わせについて、技術導入にかかる労力や経費等を総合的に判断すると、殺菌剤散布とほ場の均平化・田植え直後の徹底した浅水管理を組み合わせ手法が最も有効であると考えられた。

また、成果を取りまとめ、研修会等を通じて生産者に周知し、スクリングガイ被害のまん延防止に向けた普及活動を展開したところ、防除・対策意識の向上が顕著にみられた。

しかし、管内では、まだ生産者間及びほ場間での技術格差や防除・対策意識の差異が大きいのが実情である。コストを考慮し、1剤1回の使用を柱とし、浅水管理や冬場の耕起等、ほ場条件に合わせた防除手法の組み合わせによって安定した効果が得られるよう、今後も技術格差の是正と防除・対策意識の更なる向上、そして管内水田全体への波及を図る。

都道府県等による評価の概要

地域の実情に応じて各種防除手法を組み合わせた防除体系の実証を行い、効果的な防除体系の確立を行った。また、併せてその成果を生産者に周知し、スクリングガイのまん延防止を図ることができた。

【病害虫に関する専門家による意見（愛媛大学農学部 小西和彦教授）】
 昨年度よりも被害が減少しなかったほ場や減少程度が低かったほ場について原因を明らかにすることで、ほ場の条件に合った防除法の組み合わせを明らかにできることが期待される。

<p>第三者の主なコメント</p> <p>（愛媛大学農学部 小西和彦教授） 生産者への普及活動によって、殺菌剤以外の防除法への関心を呼び覚まし、防除・対策意識の向上が見られた点は高く評価できる。</p>	<p>国による評価の概要</p> <p>目標値のスクリングガイのまん延防止は達成されており、地域の実情に応じた防除体系の効果がみられ、対策事業の執行は適切に行われたと評価する。</p>
--	--